

社会福祉法人 まほろば 平成27年度 事業計画



指定介護老人福祉施設

特別養護老人ホーム まほろばの里たいわ

ユニット型指定介護老人福祉施設

特別養護老人ホーム まほろばの里たいわ

指定短期入所生活介護

ショートステイ まほろばの里たいわ

指定通所介護

デイサービスセンターまほろばの里たいわ

指定居宅介護支援事業所

まほろばの里たいわ居宅介護支援事業所

認可外保育所

たいわっこ保育園

平成27年度事業計画 目次

法人理念・運営理念・平成27年度運営方針	1
特別養護老人ホームまほろばの里たいわ事業計画	4
ショートステイまほろばの里たいわ事業計画	6
デイサービスセンターまほろばの里たいわ事業計画	7
まほろばの里たいわ居宅介護支援事業所事業計画	9
たいわっこ保育園事業計画	10
【各委員会及び係 年間計画】	
ユニットケア委員会・事故防止対策委員会・苦情解決委員会	11
防災対策委員会・感染（褥瘡）予防対策委員会	12
研修委員会・給食委員会	13
排泄・口腔委員会・IT（情報技術）委員会・レクボラ係	14
喀痰吸引等業務検討委員会	15

○ 法人理念

「人間尊重」

「利用者第一」

○ 運営理念

「利用者に喜ばれる運営」

「地域に喜ばれる運営」

「職員に喜ばれる運営」

そして

社会に貢献できる法人を目指す

○ 平成27年度運営方針

- ・ 法人事業として平成27年度は、仙台市高齢者保健福祉計画に基づき、特別養護老人ホームまほろばの里むかひやま（仮称）事業実施のための準備期間とします。
- ・ 大和町のシンボル、法人のマークである七ツ森にちなみ、七つの項目を基に平成27年度の施設運営を行います。



いつでも誰でも集える暮らせる
小さな街を目指して

入居者が暮らしやすい「家」を
創り、家族・友人が自然に集ま
る施設づくりを目指します。



一の森 【各部門の稼働率】

- ① 特別養護老人ホーム稼働率98%以上の確保
- ② 短期入所生活介護稼働率85%以上の確保
- ③ 通所介護稼働率50%以上の確保
- ④ 居宅介護支援事業所実績数25件以上の確保
- ⑤ 介護報酬改定に伴う収入減に対する対策として経費削減、質の向上を目的とした「経営改善委員会」の設置



二の森 【入居者の生活向上】

～ 入居者一人一人の生活に目を向け、その方々が望む生活を送ることが
できるようなケアを提供します ～

- ① ユニットケアの推進（望む生活を送るためのケアの提供）
- ② イベント・外出・施設外の活動・保育園児との交流等入居者が楽しめる生活づくり
- ③ 町内会活動（ユニット間の連携）の強化



三の森 【家族との信頼関係の強化】

- ① 家族とのコミュニケーションの充実
- ② 家族との情報交換
- ③ 家族も一緒に参加できる行事の企画・実施
- ④ 家族も過ごしやすい生活環境づくり



四の森 【働きやすい職場環境づくり】

- ① いつでも誰でも相談できる環境作り
- ② 各職種間の連携強化及び役割の明確化
- ③ 職員が楽しく働ける環境作り（親睦会の活用等）



五の森 【人材創出・育成】

- ① 人材育成（内部研修 外部研修への積極的参加）
- ② 仙台保健福祉専門学校、宮城県内の先進型介護施設と連携し、高等学校の進路指導担当及び保護者を対象とし介護施設の見学会・説明会の企画・実施
- ③ 人材創出（実習の受け入れ、地域住民の働く場所として）
- ④ 資格取得講座の実施（介護職員初任者研修・実務者研修の実施）
- ⑤ 福祉系学校との連携（介護福祉士等資格取得のための学習 人材創出のための連携 研修）
現場職員の介護福祉士受験対策として、仙台保健福祉専門学校が文部科学省の委託事業として開発したEラーニングを活用し、学習の支援を実施
- ⑥ 事例研究会の開催



六の森 【地域連携】

- ① MTS（まほろばの里たいわセミナー 地域連携研修会）の実施
- ② 他事業所間の連携（居宅介護支援事業所を中心として）
- ③ 小中学校の職場体験受入れ
- ④ ボランティア育成
- ⑤ 地域イベントへの積極的参加（まほろば夏祭等への参加）
- ⑥ 大和町、大和町社会福祉協議会との連携強化



七の森 【安全対策】

- ① 防災対策の強化（備蓄食糧の整備 避難訓練の実施）
- ② 事故対策の強化（事故対策委員会を中心とした介護事故防止対策の強化）
- ③ 感染対策の強化（感染予防対策委員会を中心とし、感染対策の徹底）
- ④ 苦情解決体制の強化（苦情解決委員会を中心とした、苦情解決体制強化及びサービス向上）

特別養護老人ホーム まほろばの里たいわ

平成27年度事業計画

【平成27年度目標】

① 入居稼働率98%以上の確保

ユニット型個室稼働率99%、多床室98%の稼働率を目指します。
上記達成のために、空床期間を1か月以内とし、空床から新規入居までの期間を短縮するよう努めていきます。
そのためにも、入居判定までの流れの見直し、入居申込者本人、家族、担当ケアマネージャーとの連絡調整、情報共有をこまめに行い、円滑なベッドコントロールを実施していきます。

② ユニットケアの再編

入居者の「生活」に目を向け、食事・排泄・入浴・生活環境を一人一人の生活パターンに合わせたケアを実施します。
入居者にとって「居心地の良い空間」を提供できるサービスを目指し、職員一人一人のケアの質の向上を目指します。

③ 家族との信頼関係の強化

平成26年度に発生したクレームの要因は、ほとんどが家族とのコミュニケーション不足によるものでした。
平成27年度は、家族とのコミュニケーションを重要視し、入居者だけではなく、家族にとっても「居心地の良い空間」づくりに努めていきます。
家族とのコミュニケーションを図ることで、信頼関係を強化し、家族の想いを職員に伝えやすい環境を作り、より良いサービスの提供を目指します。

④ 情報共有の徹底

サービスの質を確保するため、ユニット職員間、介護、リハ、ケアマネ、相談員、看護師、事務職との情報共有を徹底していきます。
各職種の役割、業務内容の明確化をし入居者・家族・地域の方々からの要望、希望等の用件に適切に、スピーディーに担当者へ繋ぐことができ、入居者・家族・地域から信頼される施設作りを目指します。

【各ユニットの目標】

あんずユニット	「受け継がれる仕事」を目指す ・個々の成長・業務改善・協力体制を整える 限られた人員、時間の中で最大の成果を目標にします。
かりんユニット	・入居者が安心して暮らせる環境整備を進める ・職員のユニットケアへの理解を深め、チーム一丸となって入居者の暮らしの質の向上を図る。
すももユニット	・落ち着いた生活の提供 ・楽しみ・笑顔の多いユニットづくり
すぐりユニット	先々の事を考え、職員・入居者一人一人の意見、想いを大切にし、ケアの統一を図ります。
くるみユニット	入居者に寄り添い、その方らしい生活が笑顔で送れるよう、入居者一人一人のペースに合わせてその方にとって安心・安全な介助を心がけます。
なつめユニット	・ユニットケアの実施 ・チームケアの徹底 ・入居者に健康で安全な、そして清潔感のある生活の提供を目指します。
すみれユニット	「家族との信頼関係を築く」 家族に入居者の現状を理解して頂き、入居者や施設に興味を持って貰えるような関わりを目指します。
りんどうユニット	誰もが落ち着いて過ごせ、笑いが絶えないユニットを目指します。
すずらんユニット	職員間・多職種との連携 申し送り、報告・連絡・相談の徹底
かたくりユニット	・家族と一緒に暖かい家庭を作ります。 ・仲間との情報共有を徹底します。 ・対の（すずらん）ユニットとの連携を強化します。

ショートステイ まほろばの里たいわ 平成27年度事業計画

【平成27年度目標】

- ① 入居稼働率平均85%以上を維持する。
 - ・ 居宅介護支援事業所との情報交換を綿密に行い、ショートステイの空床情報等を居宅介護支援事業所ケアマネに公開して行きます。
 - ・ 生活環境を見直しし、利用者に「また利用したい」と感じてもらえるようなサービスの提供に努めます。
- ② 利用者と職員との関わりを増やし、利用者・職員共に居心地の良い環境を作る。

利用者とのコミュニケーションを多く図り、利用者・職員共に楽しんで生活を送ることができるようなサービスの提供をします。また、職員にとっても仕事のやりがい、達成感を得ることができるよう、職員がやりたいケアができるような環境づくりにも努めていきます。

【年間行事計画】

4月	お花見ツアー
5月	園芸
6月	スポーツ大会
7月	バーベキュー
8月	花火大会
9月	敬老会（ショートステイ）
10月	紅葉ツアー
11月	アニマルセラピー
12月	忘年会 クリスマス会
1月	新年会
2月	節分
3月	ひな祭り会

デイサービスセンター まほろばの里たいわ

平成27年度事業計画

□ 平成27年度稼働目標50%以上を目指します。

□ 利用者確保に向けた取り組み

- ① 活動内容の選択・参加型「まほろば式テーマパーク型デイサービス」のシステムの完成を目指します。
 - ・ 平成26年度1年間を通してシステムの趣旨の浸透、プログラムの作成、利用者や居宅介護支援事業所への説明を実施。平成27年度は、システム全体を通じた連携や構築を図ります。
- ② 利用時間枠の拡大・・・5時間未満の利用希望者の受け入れ実施
 - ・ 食事・入浴・リハビリ（マッサージ）のみを希望している利用者の受け入れを行い、利用者確保の増加に努めます。
- ③ 特徴のあるデイサービス
 - ・ 介護保険改正に伴い、デイサービスの役割をさらに特化していく必要性があります。まほろばの里たいわのデイサービスを利用することで「元気になれる」リハビリに特化したデイサービスを特徴にし、利用者が目的をもって通えるデイサービスを作ります。そのためにも、柔道整復師を中心としたリハビリの実施、通所リハ終了者をデイサービスへ移行できるよう、他事業所、居宅介護支援事業所と連携を図ります。
- ④ 居宅介護支援事業所との連携強化
 - ・ 「まほろば式テーマパーク型デイサービス」のさらなるアピールを継続的に実施。介護保険制度改正に伴う、施設入居やショートステイ待機者の抱える問題やニーズの発掘を行い、まほろばの里たいわデイサービスでの対応方法の提案を行い新規利用者の確保を図ります。

□ 基礎介護の向上

- ① 介護技術の再確認・向上を目指す
 - ・ 介護技術確認表を作成し、定期的に職員の介護技術の状況を確認していく。
 - ・ 各部署と連携し、施設内研修を実施する。
一人3日～1週間程度特養ユニットへ職員を派遣し、介護技術の研修を行う。
 - ・ 送迎事故（転倒事故等を含む）0件を目指します。
- ② 基本業務の徹底
 - ・ 通常業務スケジュールの確認（排泄ケア・口腔ケアの徹底）
 - ・ 役割分担の明確化（業務改善、レイアウト、送迎表、物品、各行事等）
 - ・ 外出、買い物などの定番化（要支援の方を中心に生活に密着した自立支援）
- ③ アンケートの実施
 - ・ 利用者や家族に対し、サービス満足度調査のアンケートを実施。利用者、家族からの要望を積極的に取り入れ、「選ばれる」施設づくりを目指します。

□ 各部署との連携強化

① デイサービス事業展開プロジェクトチームの設置、実施

- ・ まほろば式テーマパーク型デイサービスの実施・評価を行う。各部署はもちろんのこと、ボランティア等の外部協力者の意見も受け入れる。

② ショートステイスタッフとの合同カンファレンスの実施

- ・ 月2回実施し、ショートステイ・デイサービスを併用している利用者の情報共有を行い、サービスの質の向上に努める。

□ 人間力の向上

① 挨拶、コミュニケーション等、接遇の強化

- ・ ビジネスマナーや一般常識、あいさつの仕方等、一般社会、一般企業において必要と思われる項目に関する研修の実施。

② 考え方・意識の向上

- ・ 「無理・出来ない・ダメ」等のネガティブな意識を撤廃し、「実行するために、達成するためには〇〇が必要」とあくまでも実行、達成を目指す考え方の浸透を図る。
- ・ 半年後、1年後を見据えた物事の考え方、企画力を身につける。

□ 社会資源の活用

① 地域ボランティアの活用

- ・ 現在、地域の民生委員による月1回（第2金曜日）の訪問あり。今後は、社会福祉協議会との連携を図り、新たなボランティアグループの発掘及び「デイサービスセンターまほろばの里たいわ」としてのボランティアグループの構築を行う。

② 地域企業との連携

- ・ 地域にある企業（工場等）への見学や各行事等での連携を図り、お互いの職業理解を深めると共に、地域に根付いたデイサービスづくりを目指します。

まほろばの里たいわ 居宅介護支援事業所 平成27年度事業計画

1 基本方針

要介護者が居宅において日常生活を営むために必要な保健医療サービス、福祉サービスの適切な利用ができるよう、また利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき適切な保健医療サービス、福祉サービスが総合的かつ効果的に提供されるよう、多様な事業者と調整しながら在宅での自立した生活が継続できるよう支援していく。

(1) 信頼を得る

利用者及びその家族とのコミュニケーションを重視し、信頼関係の構築に努める。

医療、福祉サービス事業所との情報共有を密に行い、信頼関係、事業所間の連携の強化に努める。研修等の地域住民が参加できるような交流の場を多く作り、コミュニケーションを図ることで信頼関係の構築に努める。

(2) 課題を正確に捉える

アセスメントを正確に行い、利用者及びその家族の抱える課題や問題と向き合う。

(3) 情報提供

介護保険制度や、保健医療サービス、福祉サービスの情報を適切に提供する。

(4) モニタリング

毎月計画的に利用者宅を訪問し、利用者の身体状況、生活環境を把握する。また、利用したサービスの評価と利用状況を確認する。

2 実践目標

○ 利用者確保

- ・ 関係福祉行政機関、地域包括支援センターとの連携強化に努め、介護支援専門員一人当たり担当件数（実績数）25名の利用者確保を目標とする。

○ 利用者訪問

- ・ 毎月計画的に利用者宅へ訪問し、ケアプランの説明及びモニタリングを行う。

○ 保健医療サービス、福祉サービス提供事業者との連携 給付管理

- ・ サービス提供表の作成、配布、サービス内容の調整及び利用者の情報共有を行い、必要に応じてケアプランの見直しを行う。
- ・ サービス提供事業者からサービスの実績報告を受け、内容を確認し給付管理票の作成、国民健康保険団体連合会へ翌月10日までに提出する。

○ 介護支援専門員の資質・専門性の向上

- ・ 専門的な知識・技術を高めるために積極的に研修に参加していく
- ・ 地域包括支援センターと連携し、アドバイスを受けながら困難事例の検討、対応を行っていく。
- ・ 居宅介護支援事業所主催の研修会を企画、実施し自らの資質向上だけでなく、地域全体の介護力向上に努めていく。

たいわっこ保育園 平成27年度事業計画

【平成27年度保育目標】

- ・ 心身共に丈夫な子ども
- ・ 人の気持ちが分かる子ども
- ・ 自分で考えて行動する子ども
- ・ 意欲を持つ子ども
- ・ 創造性豊かな子ども

上記を目標に、保育計画を立案、実施していきます。
また、特別養護老人ホームと連携し、行事や日常生活内での交流を持って、世代間交流を図っていきます。

【たいわっこ保育園年間行事計画】

	行 事
4月	進級式
5月	避難訓練・運動会
7月	七夕・元気まつり・プール開き
8月	すいか割り
9月	敬老会
10月	親子遠足・芋掘り・ハロウィン・避難訓練
11月	焼き芋会
12月	クリスマス会
1月	新年会・白鳥見学
2月	豆まき会
3月	修了式・お別れ会

※ 毎月 (誕生会・身体測定・避難訓練)

※ 年1回 内科検診

■ 各委員会及び係 年間計画

□ ユニットケア委員会

【目標】

本来のユニットケア・個別ケアの取り組み等、委員会を中心に勉強会や研修会を開催し、ユニットケア再編に向けて取り組んでいきます。
職員の意識の統一・スキルアップを図り施設全体でのユニットケア推進に向けて取り組み、「まほろばの里たいわの施設のカラー」及び「各ユニットのカラー」を出せるようなケアを目指します。

【活動内容】

24時間シート 食事・入浴・排泄ケア 音 空間 余暇活動等様々な項目毎に担当者をつけ、各担当がそれぞれの項目ごとに検討し、ユニットでの実践に繋げていく。
ユニットケアについての研修会を2～3か月に1回実施し、職員のユニットケアについての理解、意識の統一を図っていく。

□ 事故防止対策委員会

【目標】

「ヒヤリ・ハット報告書を活用し、事故件数を減らそう」

ユニット内でヒヤリハットについての話し合いを持ち、事故を未然に防ぐ対策を取り、事故件数を減らしていくことを目標とします。

【活動内容】

年間2階の事故防止対策委員会による施設内研修の実施。
毎月の活動としては、月間の事故・ヒヤリハット報告についての分析・防止策の検討を行う。また、ユニット内でのヒヤリハット・事故について話し合いが行われているかについても、事故防止対策委員会で管理していく。

□ 苦情解決委員会

○ 苦情解決委員会の機能を強化していく

平成26年度は、挙げられた苦情について、現場や担当者で解決後に苦情解決委員会で再発防止策等の検討を行ってきたが、平成27年度は、苦情が挙げられた時に早急に委員会を開催し、今後の対応及び再発防止策について、担当者も交えて検討を行い、苦情の円滑な解決に繋げていく。

○ 苦情を未然に防ぐ

ユニットや各部署で苦情に発展しそうなケースについて情報共有、今後の対応についての検討を行い、苦情を未然に防ぐよう努めていく。

□ 防災対策委員会

【平成27年度年間計画】

	実施事項
4月	普通救急救命講習
5月	防災訓練（夜間想定 法定訓練）
6月	防災設備点検 コンセント（漏電）点検
7月	防災訓練（1F自主訓練）
8月	防災訓練（2F自主訓練）
9月	防災訓練（3F自主訓練）
10月	避難訓練（昼間想定・法定訓練）
11月	通報訓練 普通救命講習会
12月	コンセント（漏電）点検
1月	災害備蓄品の点検
2月	講習会
3月	防災計画・マニュアルの見直し

□ 感染予防対策委員会

○ 感染症についての職員の意識向上を目指す

年間2回感染症予防についての勉強会を実施し職員の感染症予防に対する意識向上を目指します。

○ インフルエンザ・ノロウイルス集団感染「0件」を目指す

開所から現在まで、インフルエンザ・ノロウイルスの集団感染は0件でした。平成27年度も継続して集団感染0件を目指します。上記達成のためにも現在実施している感染症予防対策の徹底、インフルエンザノロウイルスに罹患した場合の初期対応を早急に確実に実施します。

□ 研修委員会

平成26年度に引き続き、施設内部研修を企画・実施し職員の知識・技術の向上に努めていきます。

【平成27年度年間計画】

	実施事項
4月	新規採用職員研修 接遇研修
5月	ユニットケア研修
6月	認知症サポーター養成講座（MTS） 嚥下機能勉強会
8月	ケアプラン研修
10月	認知症研修（施設内部研修）
3月	事例検討発表会

上記の計画の他に、事故防止対策委員会・感染予防委員会と連携を取り、各年2回の研修、介護保険制度改定に伴い、介護保険制度についての研修会を企画予定。また、職員のコミュニケーション、OJTを円滑にするために、スタッフ同士の新人・中堅・ベテランに分けた座談会を企画・実施していきます。

□ 給食委員会

平成27年度も平成26年度同様に行事食の企画・実施し、入居者に「食」の楽しさを感じていただく。

また、ユニットケアの再編に伴い、入居者の食事についても委員会の中で検討し「生活」に目を向けたケアの提供方法を検討していく。

【平成27年度活動計画】

月	内容	月	内容
4月	お花見膳	10月	芋煮会 嗜好調査
5月	端午の節句	11月	七五三
6月	そうめん・冷やし中華等の夏メニューの提供	12月	クリスマス会 年越しそば
7月	七夕膳	1月	おせち料理 七草粥 小正月（小豆粥）
8月	夏祭り ・ 土用丑の日	2月	節分 バレンタインデー
9月	敬老会祝膳・重陽の節句・おはぎ（彼岸）・十五夜	3月	上巳の節句 春分の日（ぼたもち）

上記の他に、季節に合った手作りお菓子をユニット毎に実施していく。

□ 排泄・口腔委員会

【平成27年度活動計画】

- ① オムツ・パットのコスト増加を防ぐ
 - ・ 排泄口腔委員が月ごとに集計、管理を行いコストダウンに努めていく。
- ② 個別排泄ケアの向上を目指す
 - ・ 個々に合ったインナー・アウターの選定、評価、検討を定期的実施。
 - ・ 個別の状況・身体状況に合わせた排泄方法の評価、検討を実施。3か月ごとに全体の評価を行い、必要に応じ個別評価を行う。
 - ・ 個々の排泄・身体状況に合わせ、布パンツへの移行を進めていく。
 - ・ 平成26年度に実施した研修会を基に排便コントロールの実施をしていく。
 - ・ 排泄に伴う皮膚のトラブル減少を目指す。
- ③ 口腔アセスメント表の活用
 - ・ 口腔アセスメント表を作成・活用することで、歯科衛生士との情報共有・連携を図っていく
- ④ 口腔ケア技術の向上のためのアセスメント表の浸透・周知を行う
 - ・ 口腔ケアの研修会の実施。

□ IT委員会

① 施設パンフレットの刷新

平成27年度からの介護保険制度の改定及び、施設開所から3年経過したこともあり、パンフレットのリニューアルを計画・実施していく

② 介護記録の底上げ

委員会メンバーが中心となり、記録の研修会を企画・実施し、職員一人一人の記録に対する意識の統一・向上を目指す。

③ まほろば情報の定期発行

入居者の日々の生活を家族に知っていただくためにも、継続してまほろば情報を1か月に1回定期発行します。
また、ホームページ上のブログについても、継続して実施し、入居者家族・地域に施設をより知っていただくツールとして活用していく。

□ レク・ボラ係

【平成27年度活動計画】

・平成27年度の施設行事

7月の夏祭り、9月の敬老会、12月のクリスマス会、1月の新年会の4大行事を企画・実施していく。平成26年度に実施していた、花見会や運動会等の行事については、ユニット毎の外出や行事の企画を促すためにも、各ユニットで企画・実施をしていく。

・平成26年度同様に中学校の職場体験、大学教員免許の介護体験の受け入れを行っていく。

□ 喀痰吸引等業務検討委員会

【平成27年度活動計画】

	実施事項
4月	事故・ヒヤリハット事例検討
5月	喀痰吸引研修参加者の検討 事故・ヒヤリハット事例検討
6月	事故・ヒヤリハット事例検討
7月	事故・ヒヤリハット事例検討 研修会の企画
8月	事故・ヒヤリハット事例検討 胃瘻・吸引計画書の見直し・評価
9月	事故・ヒヤリハット事例検討
10月	事故・ヒヤリハット事例検討 喀痰吸引マニュアルの見直し
11月	事故・ヒヤリハット事例検討 実地研修受け入れ
12月	事故・ヒヤリハット事例検討 胃瘻・吸引計画書の見直し・評価
1月	事故・ヒヤリハット事例検討
2月	事故・ヒヤリハット事例検討
3月	事故・ヒヤリハット事例検討 年間の評価 来年度の計画

【その他】

- ・ 喀痰吸引研修会へ職員を受講させ、喀痰吸引・胃瘻の業務が実施できる介護職員を増やす。（平成26年3月現在 4名受講終了）
- ・ 看護師・喀痰吸引研修会修了職員を講師とし喀痰吸引・胃瘻についての施設研修会を企画・実施し、安全に喀痰吸引・胃瘻の管理が行えるようにしていく。
- ・ 喀痰吸引・経管栄養マニュアルの見直しを適宜行っていく。